



国定第5期の教科書1941(昭和16)年

「学べない、遊べない、空襲で学校がなくなつた」



学制一五〇年記念企画展の見どころ



一九四一(昭和16)年、小学校は「国民学校」と改められました。教科書も国民学校用のものが作られ、軍事主義的教育を受けていきます。一九四五(昭和20)年には、本土決戦に備えて国民学校初等科(現在の小学校)を除く全学校

の授業が停止し、生徒たちは工場に動員されました。

▼戦後の民主教育

最初誰もが困惑していました。戦争により、我慢を強いらつちでしたが、終戦によつて日本の教育制度は大きく変わります。

一九四七(昭和22)年には、教育基本法が制定され、日本国憲法に基づいて個人の尊嚴を重んじ、平和と民主主義の実現を目指す教育の理念が掲げられました。

6・3・3制の新しい学校制度

一九四七年には、新制の中等教育が始まり、教科書も全国一律の国定制度から検定制度に改められ、各教科で教える内容を定めた学習指導要領によって授業がなされるようになります。



懐かしい給食

▼学校給食のはじまり

一九四七年5月1日に、福井県に一七九校の中学校が誕生しました。準備期間が短かつたため、備品や図書も十分に足りず小学校から借り、教員も教科書も不足していました。しかし、誰もが男女共学の中等教育を受けることができる、という希望と期待をもつて始まつた新制中学校でした。



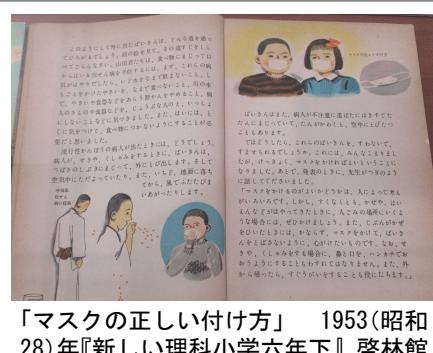
日本国憲法の公布、中学校の誕生など大きな出来事が書かれた学校日誌

▼新制中学校の誕生

福井県では、一九四六年秋にアメリカの援助によって脱脂粉乳が配給された学校がありました。「パン・ミルク・おかず」の完全給食が実施されたのは、昭和25年頃でした。一九五一(昭和26)年には、県内の95%の学校で給食が実施されました。

▼伝染病対策教育

子どもたちの健康を、教育によつて守る



「マスクの正しい付け方」 1953(昭和28)年『新しい理科小学六年下』啓林館

福井県では、一九四六年秋にアメリカの援助について学習していました。現在、新型コロナ禍の日本で予防意識が根付いている背景として、昭和20~30年代の学校教育が大きな役割を果たしたと考えられます。

福井県では、幅広い学年・教科で伝染病について学習していました。現在、新型コロナ禍の日本で予防意識が根付いている背景として、昭和20~30年代の学校教育が大きな役割を果たしたと考えられます。



倒壊した校舎(福井市啓蒙小学校)

福井県では、幅広い学年・教科で伝染病について学習していました。現在、新型コロナ禍の日本で予防意識が根付いている背景として、昭和20~30年代の学校教育が大きな役割を果たしたと考えられます。

▼福井地震

復興のさなか、また学校が失われた

福井県では、幅広い学年・教科で伝染病について学習していました。現在、新型コロナ禍の日本で予防意識が根付いている背景として、昭和20~30年代の学校教育が大きな役割を果たしたと考えられます。